総合医学会報告

シンポジウム：「地域医療連携」

地域住民を対象にした「健康まつり」

菊地　秀

第62回国立病院総合医学会
（平成20年11月12日　於東京）

IRYO　Vol. 64　No. 3（190－192）2010

要旨　最近，各地の病院で「健康まつり」，ないしはこれに準ずる名称で地域住民を対象とした催しが多くみられるようになってきた．仙台医療センターでも平成18年の秋に第1回目の「仙台医療センター健康まつり」を立ち上げて以来，毎年開催し平成20年の秋で第3回目を迎えた．本シンポジウムでは当院における「健康まつり」開催に至る過程や目的，開催意義やその概要について報告した．

「健康まつり」開催の目的としては，まず，地域住民の方々や病院利用者に対して感謝の意を表し，ひいては地域住民の健康増進の支援と健康に対する意識の高揚の一助となればと考えた．また，当院の医療設備や提供している医療に対する地域住民の理解の促進，ならびにこの行事を職員の手で開催することを通して各職員間の相互理解の深化と職員同士の一体感の醸成等が掲げられた．

「健康まつり」の実行に当たる職員はボランティアとし，診療部，看護部を中心に各職場から選出された約20名から成る実行委員会が中心となって計画を立案し実行した．第1回の開催の際には健康，薬，栄養などの相談コーナー，検査コーナーのほかに体力測定，救急蘇生のデモンストレーションや院内見学ツアーも行った．このほかに各種講演会や，アトラクションとして市の交響楽団の演奏会も開催した．参加者は1000名を超え，アンケート調査でも概ね好評であった．第2回，第3回と回を重ねるにつれ職員も慣れて内容も充実し参加者も多くなった．今後の課題としては，いかにしてこの催しのマンネリ化を防ぎ，内容を充実させて継続するか，また，これまでは職員はボランティアで協力してくれているがそのままでよいかなどが上げられる．しかし，課題はあるがこのような行事も病院の社会的責任：Hospital Social Responsibility（HSR）の一つと捉え今後も継続していくつもりである．

キーワード　地域医療連携，病院の社会的責任，健康まつり

はじめに

最近，各地の病院で地域医療連携の一環として「健康まつり」，ないしは「病院祭」等の名称で地域住民を対象とした催しが多くみられるようになってきた．当院でも平成18年の秋に第1回目の「仙台

国立病院機構仙台医療センター　院長
（平成22年1月18日受付，平成22年3月12日受理）
The Festival for Regional Inhabitants
Shu Kikuchi，NHO Sendai Medical Center
Key Words：regional medical network，HSR（Hospital Social Responsibility），the health festival